

しいのき



タカ派とハト派

名誉館長 三 隅 治 雄

戦後50年を迎え、改めて戦争の無残を悔恨し、平和への祈念を深める昨今です。世界の歴史を振り返ると、人類はだれしも平和を願いながら、現実には戦争の連続で、平和はその間のいつときの休止といった感があります。民族や集団個々が、おのれの理念・主義・利害を主張し、その衝突が争いを生み、権力・武力の行使が戦争を起こす。だから平穏安息を求めるなら、自己を譲って他との協調を心掛ける必要があります。俗にタカ派とハト派と言ひ、タカ派は自己主張派、ハト派は謙譲派で、ハトの謙譲はタカの猛威を恐れての弱者の対応と歯がゆがられることもあります。しかし鳩という鳥は、外見は弱そうでも、内にはさかんな繁殖力と生命力をもち、古代ギリシャ・ローマでは豊穡のシンボルとあおがれ、わが国でも母子信仰と結び付いて、八幡神の神使とあがめられました。ノアの箱舟神話に由来するオリーブをくわえた鳩は、いまや世界平和のシンボルマークとなっていますが、その豊穡とやすらぎを秘めた姿に眼を凝らしたいと思います。

文化財よもやま話

江古田の獅子舞

中野区の江古田には、戦時中、そして戦後の地域社会が急激に変化していった高度経済成長の時期を経て、舞い続けられてきた獅子舞があります。これはその間一度も途絶えることがありませんでした。

この江古田の獅子舞は一人立ちの三匹獅子舞と呼ばれるもので、江古田の鎮守である氷川神社の秋祭り（10月の第1日曜日）に、境内の神楽殿の前にて奉納されています。一人立ちの三匹獅子とは、関東・東北を中心に東日本一帯に広く分布している獅子舞であり、大獅子・中獅子・女獅子の三頭が獅子自身が打つ太鼓に加え、笛、ササラにあわせて舞い踊ります。ササラは獅子に同行する4人の花笠が持ちます。江古田の獅子舞では、花笠に加え、獅子の一行に東西南北という四方を守るとされる四神が配されていることが大きな特徴となっています。四神はそれぞれ青竜・白虎・朱雀・玄武という想像上の動物であり、今、家相をみることによく使われている風水思想との関連で考えることのできるものです。

地域の人々の伝承によれば、その始まりは約750年前とされ、また近年、旧名主家から発見された「獅子由来書」によれば、慶安二年（1649）に始められたことが記されています。どちらにしても数百年という歴史を、この獅子舞は生き続けており、江古田の人々は親から子へ、孫へとその技術を連綿と伝えてきたのでした。今、戦後50年という時期を迎え、戦争とその後の高度経済成長期を経た、社会の変動の時期を思うとき、それに伴う地域の都市化の中で、獅子舞が中断されることなく伝えられてきたことに、驚きを感じざるを得ません。改めて獅子舞とは人々にとって何であったのか考える必要を感じています。

人事移動

館長 村井 登 4. 1 着任

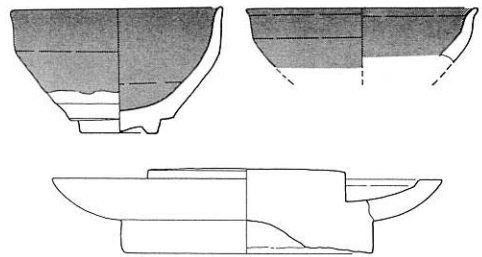
主任専門研究員 小暮欽作 4. 1 着任

大地に眠る歴史

茶道を示す出土遺物

気品あふれる日本の伝統文化の一つに茶道があります。喫茶の風は鎌倉時代に中国から伝来して室町時代におおいに盛んになり、茶道の形がととのいました。はじめ、武士階層を中心にたしなまれていましたが、室町時代後半になると全国的なひろがりをもつようになります。

このような茶道の証拠は文字史料ばかりでなく遺跡の出土遺物からもうかがうことができます。



▲上段：天目茶碗(4分の1)

下段：茶臼<下臼> (8分の1)

中野区でも江古田一丁目の御嶽遺跡から天目茶碗と茶臼という茶道専用の遺物が出土しています。

天目茶碗は、中国天目山の禅寺で使用されていた黒褐色の上ぐすりをかけたやきもので、留学僧が日本に持ち込んだものです。その後茶道の発展とともに美濃地域でも国産品が作られるようになりました。御嶽遺跡で発見された天目茶碗は戦国時代末期から江戸時代初頭にかけての溝から出土したもので美濃産と考えられます。

茶臼は茶の葉をすり、抹茶を作るための臼で、穀物用の臼と異なり、閃緑岩というきめのこまかい石で非常に精巧につくられています。図の茶臼（下臼）は、天目茶碗と同時期の建物跡から発見されています。

さて、このような事実は、今から400年以上前の江古田に、茶道の心得のある人物が実在していたことを示しています。前回報告しました輸入陶磁器を所有していたのも、この人物であったことが予想されますので、当時はかなり文化的雰囲気を持った地域だったことがわかります。想像はさらにたくましく展開します。

古文書つづり

江戸時代は全てをリサイクル

皆さんは「糞」というとどういう風に思うでしょうか？『広辞苑』で調べると、「動物が消化器で消化した食物の残滓が、肛門から排泄されるもの。大便。ふん。」と書かれています。

右の史料は「下糞議定小前連印帳」と書かれています。表紙が破損しているため、年代が明らかにできませんが、内容から寛政元年（1789）12月に江古田村の村の人達が取り交わした議定書（約束事）であることがわかります。江古田村の人達が皆で印鑑まで押印して取り交わしたわけですが、一体何を取り交わしたのでしょうか？衛生上問題があることを理由に、道端で糞をしないことでも取り決めたのでしょうか？

紙面の都合で中の史料は掲載できませんが、内容は糞の値段をもっと安く、安定した値段で購入することを目的に取り決めたものです。実は糞は、別名下肥といわれ、農業において貴重な肥料だったのです。

糞は、その字の通り、米が異なると糞になります。糞の値段が高くなることは、農業を営む人々にとっては死活問題でした。貴重かつ基本的な肥料である糞の、安定した購入は一村だけの問題ではなく、広域的な問題だったようです。

糞（下肥）をめぐる話はいくつかあります。町

▶寛政元年（一七八九）「下糞議定小前連印帳」表紙

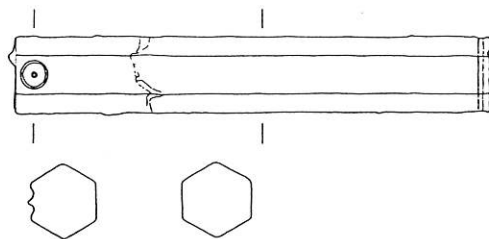


方の糞の方が農村の糞よりも栄養のあるものを食べていたことから高価であったこと、下肥を獲得するために人々は積極的に掃除役を勤めたこと、下肥の売買のために市場が立ったこと、しかも下肥の善し悪しを判別するため糞を舐めたことなど、色々な話がありました。

土は糞によって栄養が蓄えられ、作られたおいしいお米が私たちの口へ、自然というのはよくできています。

掘り出された東京大空襲

サーチライトに照らし出されたB29、その周りに点滅する高射砲弾の炸裂する閃光。そして幾筋も青白い光の尾を引いて流星群のように降りそそぐ焼夷弾の雨。オレンジ色の炎を噴き上げ人も家も焼き払い、空一面が真赤に染められた東京大空襲の悪夢のような記憶。今もなお忘れ得ない戦争体験となって脳裏に深く焼き付けられています。あの東京大空襲の主役が焼夷弾です。濃緑色に塗られた長さ50cm、直径8cmの六角柱状の弾体36本が爆弾の形に束ねられ、投下されたのです。あれから半世紀、区内の各所で遺跡の発掘調査が行わ



れています。区立神明小学校の校庭の片隅で古墳時代の住居跡を発掘していた時のこと、赤土につき刺さったままの状態焼夷弾が2本出て来ました。50年の歳月が戦争の惨禍を遠い過去に埋没させてゆく時、遺跡発掘のシャベルは、その過去を再び陽の光の下によみがえらせたのです。

事業報告

各種事業経過

1995年4月～6月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「新収蔵資料展」-うつりゆく暮らしと道具 「懐かしのポスター展」-広告にみる昭和の世相-	4/20～5/20 6/1～7/2
史跡めぐり	「弥生町・本町コース」 講師 長嶋安男氏	4/15
歴 史 講 座	人物中野・江戸明治 「八代將軍徳川吉宗と中野」講師 太田尚宏氏(北区史編纂室) 「祖父井上円了と哲学堂」講師 井上公資氏(館運営協議会委員)	6/17 6/24
文化財調査	鷺宮地区民俗調査	6/20～
埋蔵文化財調査	御嶽遺跡 整理報告書刊行作業 片山遺跡 整理報告書刊行作業	継続中 継続中

寄贈資料一覧

1994年6月28日～9月21日
敬称略・受入順

資 料 名	点数	氏 名
書籍	2	新野 イク
太平洋戦争資料他	33	瀬尾 昌邦
ボーイスカウト制服他	一式	本田テル子
手絡・かんざし	一式	松倉 靖枝
百人一首	1	山 照子
信玄袋・水筒・米袋	5	覚張 友樹
百人一首・扇子・軍票他	7	坂部 良寛
関東大震災の写真	一式	永江良一郎
百人一首	1	北村 孝子
雛人形	一揃	福島 弘徳
正月用三段重ね	1	林 千鶴子
羽子板	3	深井 義保
羽子板	2	嶋瀬 久子
三ツ重盃・盃台・ザル	一揃	中里多美子
盃台・銚子・長手盆他	一揃	清水田家子
羽子板・破魔矢	3	横山 慶子
鏡獅子	1	大島 静子
ふくわらい・双六他	3	竹内 竹蔵
印籠・盃・花札他	一式	小西 豊子
計算機・絵葉書他	64	露無 健治
百人一道・お年玉袋	2	菊地 真琴
三ツ重盃	一揃	中村 敦子
日本人形	1	富田 和子
キセル・襖の中戸他	一式	小西 豊子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

NEWS

企画展「戦後50年」今考えれば
7月20日(木)～8月31日(木)



▲昭和20年11月(谷戸小より富士山を望む)
古沢勇士氏 撮影

入館状況

1995年3月～1995年6月(延99日間) (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
12,116	528	995	13,639

発行年月日 1995年7月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 6中教社第21号)